Tutti

～みんなでうたいましょう！～

岡山県合唱連盟機関紙

トゥッティー　第７３号

発行責任者：岡山県合唱連盟事務局長　　山田　威夫
事　務　局：岡山市京山 2-3-9-601
ＴＥＬ：070-5673-1524　ＦＡＸ：03-6862-9869
電話受付は留守電対応となります。
http//www.geocities.jp/jcaokayamahome/index.htm
編　集　者：岡山県合唱連盟事務局次長　筈尾　多美
E-mail：tamicchi@palette.plala.or.jp

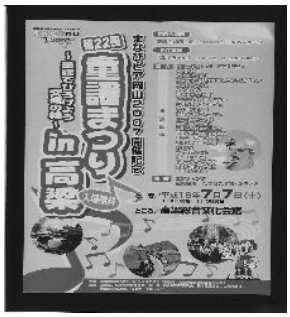
文化こそみんなの心をつなぐ☆
☆音楽＜歌＞を通したまちづくり

☆岡山県合唱連盟副理事長
矢内　淑子

いつの時代においても子どもたちが心豊かに育つことをおとなたちは願っている。しかしながら、現在子どもを取り巻く環境はますます深刻な状況にあり、今まで以上に地域社会のあり方が問われている。そこで、実際に地域社会で行われている音楽〈歌〉を通したまちづくりの取り組み、岡山県高梁市の「高梁市の童謡まつりイン高梁」と滋賀県蒲生郡日野町の「わたむき音楽祭」、「ちんから峠のうたまつり」の二つの事例を紹介しながら、子どもが生き生きと生活できる地域社会における「まちづくり」、「地域づくり」とはどのようなものかを、みなさまと一緒に考えていきたいと思う。

１）岡山県高梁市の「童謡まつりイン高梁」

高梁市は、岡山県の中西部に位置し、県下三大河川の一つ高梁川が中央部を南北に還流し、その両側に吉備高原が東西に広がっている。総面積547.01 ㎢ [2]、人口 3 万8,799 人、世帯数１万5,325 世帯（2005[平成 17]年度国勢調査）である [2)]。平成 16 年に合併され、１市４町になった。



【概要・経過】

高梁市は小京都にふさわしく、誰もが親しんできた童謡を心のふるさとにする地域づくり、まちづくりを目指して、1985（昭和 60）年から「童謡のまちづくり」の取り組みがスタートした。これは、童謡の流れる音声装置の設置、コーラスグループ誕生等多くの市民皆さんの童謡に関する高まりを受けて、歴史と文化の町高梁で子どもからおとなまでが参加した個性あふれるまちづくりの事業として生まれたものである。このまちづくりの事業の趣旨に賛同する民間団体を中心とする代表者で童謡のまちづくり推進委員会を設置し、現在まで高梁市の美しい自然と風土の中で、「いつまでも、どこでも、だれでも、気楽に楽しめ、素朴なメロディーと歌詞によって感性を育て情緒を豊かにしてくれる」童謡を通して、心のまちづくりを進めることを目的に各種事業を展開しており、「童謡まつりイン高橋」開催もその１つである。

この演奏会は、市民が日常生活の中で童謡を聴き、歌って、心を豊かにする常時活動と、年１回常時活動の成果を発表するイベントからなり、1986（昭和 61）年に始まり、2008（平成 20）年で 23 回を迎えた。日本童謡協会が 1984（昭和 59）年に「童謡の日」と制定した７月１日前後の土・日曜日に、１日目は著名なゲストを中心に、２日目は地元の合唱団を中心に、高梁市総合文化会館を会場に開催されていたが、2000（平成 12）年度の第 15 回より１日の開催となり、著名なゲストの出演を取りやめて、県内外から合唱グループを招待して交流するなど、手作りで盛り上げる取り組みになっている。

【特徴・成果】

① 高梁市教育委員会と出演団体の関係（合唱だけではないので、以下出演団体とする）

2005（昭和 17）年までは、高梁市教育委員会は事務局として、まちづくり推進委員会や出演団体の招集に始まり、事業資金の捻出、ゲストの交渉、ステージの企画等の多くを行っていた。しかし、2005（平成 17）年度 20 回の節目を迎え、2006（平成 18）年度からは、出演団体の関係者で新たに「高梁市童謡まつり企画運営委員会」を組織し、関係者が中心になって祭りの企画立案や当日の運営を行う体制へと大幅な変更をした。17 年間続いた著名なゲスト出演による企画は、市民に「童謡のまちづくり」を定着させる成果があった。また、全体的には、行政と民間団体の代表により「童謡のまちづくり」をコンセプトに各種事業展開できたことは、市民の人々へ広く知らせることができた。

② 演奏会の内容

この演奏会の大きな特徴は、コンセプトが童謡である、保育所・幼稚園の子どもたちの参加、合唱団だけではなく邦楽、器楽演奏による、高梁市で生まれた新しい童謡の発表などが挙げられる。2007（平成 19）年に行われた演奏会の内容をみると、３部構成からなり、第１部は、市内小学生によるオープニングに始まり、保育所・幼稚園児の歌、高梁市で生まれた新しい童謡の発表、第２部は一般市民合唱団と中学生音楽クラブの合唱、３部は琴の演奏、短期大学幼児教育学科学生の合唱、ハーモニカクラブの団体の演奏、一般市民の合唱団、招待合唱団、招待合唱団と地元の合唱団との合同演奏、全員合唱などである。出演団体が企画運営にあたることで、市民の関心も高まっている。

＜次ページへ＞

③ 指導者

長年功績のある指導者を中心に、若手への引継ぎが一致団結して行われている。

④ 団員・観客の意識

2006（平成 18）年からは、3 月頃から参加団体の代表や関係者が数回会議をし、企画立案することで、マンネリ感から脱却するよい機会となり、各合唱団の意識も変わり密接な関係になった。保育所・幼稚園の子どもたちが意欲的に声を出すようになった、家族からは演奏会の記録を家族で見ることで、共通の話題ができたと喜ばれている。観客も関係の団体だけでなく、他の団体の演奏も聴くようになるなど意識の変化がみられた。

⑤ 参加団体

2007（平成 19）年度は、高梁市の一般市民合唱団、少年少女合唱団、保育所・幼稚園、中学校音楽部、短期大学幼児教育科、文化協会邦楽部三曲会、高梁ハーモニカクラブ、招待合唱団など、市内参加団体 23 団体（参加人数 630 名）、招待合唱団 1 団体（31 名）と多くの参加があった。始まった当初、7 団体の参加であったが、現在では 16 団体の参加増となっている。このことは、童謡のまちづくりの成果の一つである。

⑥ 新しい童謡の発表

毎年、前年度の高梁市文化選奨童謡作詞部門の優秀な作品に市内の音楽家が曲をつけ、童謡まつり内で発表している。現在まで 23 曲（平成 19 年 3 月末現在）が完成している。2000（平成 12 年）年度末には楽譜集を作成配布している。

⑦ 童謡セミナー

2003（平成 15）年から、新たに市民向けの講習会（発声法・合唱指揮法）を行っている。合唱団・指導者のレベルの向上につながっている。

⑧ 童謡発表会の開催

合併により旧市町の枠を超えて、文化による地域間の交流を行うことを目的に、高梁地域以外でも発表会を開催している。2007（平成 19）年度は高梁市有漢生涯学習センターにおいて、童謡発表会が開催された。高梁地域参加団体 4 団体（参加人数 187 名）、有漢地域参加団体 2 団体（参加人数 18 名）であった。

⑨ 団の育成・助成

童謡のまちづくりを推進するために、合唱団、合奏団については結成年度に５万円以内、次年度から３万円以内の助成（ただし、補助期間は５年とする）、施設設置については、設置年度に 10 万円以内の助成、進行行事については、設置年度に３万円以内の助成がされている。このことは、合唱団の増加につながっている。

⑩ 普及宣伝活動

学校教育活動や社会教育活動へ取り入れ、合唱グループの育成と振興、高梁にふさわしい童謡作り、啓発活動などを行っている。市内の公園・駐車場へのブロンズ像の設置、市庁舎や学校への童謡チャイム設置することにより、多くの市民の方に対して普及を行っている。また、高梁で生まれた新しい童謡については 2000（平成 12）年度に楽譜を作成し配布している。

のどかな自然環境に恵まれた高梁市においても、核家族化や自己中心的な風潮による人間関係の希薄さが憂慮され始めたころ、21 世紀を担う若者の健全育成にも通じる伝統的行事の一つとして、行政主導で始まった。しかし、それまでの中学校教員であった丸池和男氏の少年少女達や婦人達への熱心な指導があり、その輪が広がり受け継がれる流れと、行政のビジョンがよい形で結実し、保育所・幼稚園の子どもたちから大人の市民をも巻き込んで継続的・発展的に行われることで、市民から愛される文化的行事となっている。

《次号につづく》

全国大会開催　～みなさまのご協力に感謝して

事務局長　山田　威夫

全国大会の開催は、３年前の平成１７年夏に中国支部より打診があり、国体の夏季大会を目前にした時期に、正副理事長にて３年先の全国大会を受け入れるか否かを協議したことに始まります。その後、理事会の協議を経て、岡山コンベンション協会の承認のもとシンフォニーホールの予約を実施いたしました。実行委員会の設置は、平成 20 年の春でしたが、準備が本格的にスタートしたのは県合唱コンクールが終わった８月からでした。どうしても目先の行事への対応が優先するので、仕方がないと言えばそうでしたが、出足が１月遅かったと思います。この遅れはあとあとまで尾を引きました。シンボルマークの依頼もあと１月早ければ、スムーズな準備ができたであろうと思います。実際、８月は全国から殺到した応募をさばくのにほぼ１週間つぶれました。

一昨年度の中国大会は上月理事長になって初めてブロック大会でしたが、今回は全国大会ということで、さらに勝手が違うことが多く戸惑うことが多かったです。中国大会でも支部の役割があって県連の入る余地がない部分もありましたが、全国大会は会計からして全日本と実行委員会の２本立てで、審査員関連にはタッチする必要が無いほかに全日本の役員の方も全国から大勢来られそれらの対応や表彰式典も、全日本の主導で進むなどはっきりと役割が分かれておりました。口出しできない部分や規制されることも多く、自分の役割がどこまでなのか、どこまですべきかがわからず困惑しました。

大会運営も全日本理事会で内容が決められており、若い中高世代に演奏を聴いて欲しいとユースシートの提案もしましたが、実現できず残念な思いをいたしました。入場者数自体は、２日目に立ち見が出るほど盛況で入場規制も真剣に検討されました。みなさんのご協力により無事に大会が終えられたことを感謝してやみません。

個人的には、本業が忙しく、特に９月以降に入ってからはいっそう拍車がかかり、間に合わないのではないかという心配もいたしました。大会が終わってからは、即座にアンコンへと頭を切り替えねばならず、こちらも初めての総社市民会館であるために準備を一からしないといけないという状況に追い込まれておりました。

全国大会は終わっても、広告料の精算や補助金の報告などしなければいけないことはわりあい多く、これが３月末の決算まで続きます。これも遅れに遅れたため全日本にはご迷惑をおかけしました。

今度携わることがあるとすればもう少しうまくできるかなと思ったりもしていますが、やはり重要なのは運営に携わってくださった加盟団体のみなさまのご協力でした。合唱連盟と言う組織は本当にすごいなあと思います。演奏を聴きたいのをぐっとこらえて２日間（なかには３日間）の長期間にわたり大会をささえていただきました。あるブログには、岡山県連スタッフのおもてなし精神のすばらしさが、たたえられておりました。

実行委員として、準備に奔走してくださった各部長さん次長さん、事務局スタッフのみなさまにも大変お世話になりました。この場をお借りして篤く御礼申し上げます。

第１回声楽アンサンブルコンテスト　全国大会　福島

広い世界へ！

金光学園中学校　音楽部コーラス
花咲　季里

今回福島での全国大会に出ることになり、最初は全く現実味がなく、自分たちが出るなんて本当にいいのかなと思っていました。しかし、日にちが近づくにつれて、重大さを感じ、またとない機会なので大切にしよう、頑張ろうという気持ちになっていました。

当日、参加する団体の歌声、そして挨拶に圧倒されました。本番は緊張していましたが、よく響くホールだったこともあり、落ち着いて歌うことができました。でも、のばしきれなかったところがあったり、最後が決まらなかったりで、舞台を去ったときに泣きたくなりました。結果は良くなかったけれども、これが自分達の実力だと納得したと共に、悔しくもありました。自分達が今まで知っていた世界の狭さを感じ、もっと広い世界に目を向けることができました。本選に出た人たちは同じソプラノでも声の出し方や音量が全く違いました。すごく勉強になりました。もっとうまくなりたいです。

ありがとう

高梁高等学校コーラス部
部長　亀川ちひろ

全国大会へ推薦される団体の発表の時、緊張しすぎて発表までの時間がとても長く感じました。そして、会場に私たちのグループ名が呼ばれた瞬間、本当にうれしくて、涙があふれてきました。全国大会の二日後には、高梁高校のスプリングコンサートがあり、両立して練習するのはとても大変でした。ですが、友達・先生方の応援、先輩・後輩の支えがあり、無事に全国大会当日を迎えました。会場に着いて、発声・リハーサルを行っていくうちに、緊張が次第に高まっていきました。「メイド・イン・モリノ・vol.15」というかけ声をみんなでかけ、舞台に立ちました。このメンバーで歌う最初で最後の全国大会、高梁高校らしい演奏が出来るよう、心がけました。結果は優良賞でしたが、みんなで頑張ってきた日々は、私たちにとって良い経験となり、また力となりました。

私たちを応援してくださった方々、森野先生、ありがとうございました。そして、１４人の大切なメンバーへ、「ありがとう」。

見せつけられた、アンサンブルの本質

都こんぶ（合唱団こぶ）　大山　敬子

県アンサンブルコンテストでのグランプリ、本当にありがとうございました。そして、福島に行ってまいりました。

私たちは一般部門１４番目の出場でした。その舞台袖に待機していた時に、13番　福井県　福井市麻生津小学校　６年生６名の演奏。見事でした。もう一度聴きたい！翌日の本選で彼女たちの姿、演奏を目の当たりにしました。セーラー服に白い体育館シューズを履き、足音をさせず舞台に出てきた小さな女の子たち。おでこだしポニーテールにしゃんと伸ばした背すじ、まるでバレリーナのように、入ってくるときから音楽が始まっているのです。音取りもなく、指揮もなく、笑顔を見交わした瞬間、ホールの奥に飛んできた純粋な声、ハーモニー、そして音楽の高まりとともに身体の芯からにじみ出てくるフレーズ感、アンサンブルの本質を見せつけられた思いでした。堂々たる演奏家たちに会場は惜しみない拍手を続けました。

続いて私たちの演奏です。岡山県合唱連盟、そして合唱仲間の応援、さらには、私たちを福島に向かわせるためにカンパ活動までし、支援してくださった総社や他市の方々の思いを確かめ合い、素晴らしい福島市音楽堂での演奏を、心に刻めるようにがんばりました。静寂の世界「ああ、雪の森の静寂」と動画の世界「都の春」を演奏させていただきました。福島で学んだことを音楽に表現できるように、またがんばります。